

午後1時零分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、18番実藤輝夫議員の質問を許可します。18番実藤輝夫議員。

（18番実藤輝夫君登壇）

○18番（実藤輝夫君） 18番実藤輝夫でございます。今回退職される3人の部長、また課長以下の皆様方に心からこれまでの市の行政に対するかかわりと御努力に対して深甚なる敬意を表しながら、そしてまた退職後は市民の立場で朝倉市政、朝倉市民のために御尽力いただくことを心からお願いいたしまして、私の一般質問をこれから行ってまいりたいと思います。

まず最初に、これまでの私の三十数年を振り返りながら、一番最初に人口問題のことを意識したことを思い出しております。当時、昭和54年に31歳で市会議員になりましたが、そのころの衆議院選挙で山崎 拓前衆議院の応援演説に小石原、宝珠山に行きました。もう三十数年前でございますけども、そのときに初めて過疎地化していく小石原、宝珠山の姿を目の当たりにいたしました。

もう1つは、旧高木中学校に私の塾の生徒たちを連れて、高木中学校の体育館で合宿をしたこと、そのときも高木というところの現状を見まして、まだまだそのころはそうでもないと思っておりましたが、今日、手嶋議長とも話を聞く中で、本当に厳しい過疎化した現実を思い知らされた思いであります。

これから二十数年後に朝倉市が本当に衰退していく市になるのか、それとも減少社会ではあっても活気を取り戻す社会になるのか、今、私たちの議員という立場、あるいは行政にかかわる市長を中心とした皆さんのかかわり、そしてまたそれを支えていく地域住民、朝倉市全体の動きとしてこの問題を捉えていかなければならないという思いになっております。

先般、テレビの「花燃ゆ」という番組の中で、萩の小学校の生徒たちが吉田松陰の言葉を暗唱してるシーンがありました。子供たちの将来、そしてまた地域にかける意気込みというものをかいま見た気持ちがいたしました。

教育は地域発展の源泉であります。そうしたことを考えながら、私もこれから、もし市政に携わることができるならば、残された余力を全身全霊頑張っていきたいという気持ちになっております。

以下、降壇して質問席から続行したいと思っております。

（18番実藤輝夫君降壇）

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） きょうは70分という時間を与えられておりますので、人口問題にかかわることで職員の皆さん方にはいろいろ資料等も含めて教えていただきました。金曜日ときょうの朝等を含めて、いろんな角度から本当にすばらしい一般質問がなされたとい

うことで、私も何を一般質問しようかなど、また改めて今、考えてるところでございます。

最初に、きょうは職員の方々に一緒にこの問題は取り組んでいく、森田市長を中心として市の行政、そして議会、地域住民、三者一体になって取り組んでいくということで、きょう一般質問をしようということにいたしました。

まずは市長、最初に、最後に総括的な話をしたいと思うんで質問したいと思うんですが、人口問題に関する市長の御見解をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 人口問題に対する市長の見解ということでございます。今議会でも多くの議員さんのほうから、特に朝倉市の人口減少問題についての質問をいただきました。特に日本創成会議の試算が出まして、にわかにかこのところ全国各地で人口減少問題についての危機感といえますか、そういったものが出てまいりました。

国のほうでもまち・ひと・しごと創生本部という形で、1つには日本全体の人口減少問題にどう取り組むか、そしてもう1つには、いわゆる都市と地方のこの人口のバランスといえますか、そういったものを今後どうやるかということで本格的に取り組みがなされるようになりました。

そこで、私自身は昨日や金曜日の一般質問のときでも申し上げましたように、これは合併後のみならず、それ以前からこの地域の人口が減少していることはわかってましたから、どういう状況にあるのかと、そしてその原因はどこにあるのかということをおなりにいろいろ検討してみました。内容についてはこの前、話しましたんで、ここでは申し上げませんけれども、やはり我々は将来にわたりまして、人口減少というのはこれは一定やむを得んのかなと、しばらくはやむを得んのかなというふうに思ってます。

しかし、都市と農村の問題については、やはり朝倉市として今後やるべき施策をやった上で、何とか人口減少に歯どめをかけ、あわせて減少したとしても、先ほど議員が申されましたように、活気のある地域社会というものを建設していくということについて、これは全庁挙げて、もちろん議会、市民の皆さん方の協力をいただきながら取り組んでいかなきゃならんという思いであります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 人口減少というものは、もう現実的にとめることはできないだろうと。きょうの私の一般質問の視点は、先ほど登壇して、今、市長からも言ってもらいましたように、減少社会の中でどうかして朝倉市を蘇生し、活性化させる手だてはないのかなと、こういうことを考えていこうと、そしてまた行動に移していこうという思いでございます。

きょうは数多くの部長以下、課長ほか、係長ですかね、ほかの方がお見えになってますので、時間が少し与えられておりますので、各課の取り組み、思いを少し述べていただきたい。長々述べなくて結構ですから、今回の私の一般質問をするに当たって、いろいろ各

課で御討議もなされたのではないかという思いがします。先ほどから、この間、一般質問でもそれぞれの部、課が御答弁いただきました。そういうことでも結構です。今、私の趣旨を理解しながら、まず総務部の課長のほうから、じゃあ鶴田課長のほうからまず、そして部長、まとめていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 人口問題について私どもが思ってるのは、施策の効果といますか、それがすぐに目にあらわれてこないという点があるなというふうに思ってるところです。難しい課題だということでございます。定住人口の拡大に向けては総合的な総合力の向上なり、魅力を高めるということが大切だというふうに思っております。

ただ近年、各自治体間での競争といますか、それがよく言われておるんですけども、全てに勝つということは不可能だというふうに思っておりますので、よいところをいかに伸ばせるかと、アピールできるかというところが大事だというふうに私としては思ってるところです。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 全ての課で、これ日本創成会議が出したのが25年後の指標ですけども、ちょうど今35歳の職員が25年後は60歳になるわけです。そのころは私もこの世にいるかどうかわからないんですけども、そういった若い職員の皆さんの力というものは、非常にこれから先、重要になる。

私、この一般質問をしようと思ったのは、各課、係でこの人口問題に対してどう思うのか、きょう具体的に何をやる、かにをやるはなかなか出てこないでしょう。しかしながら、日々ふだんにそういった意識を持っていただきたい。今回、私どもも1つの形で出させていただきましたけども、あらゆるところからこういった意見、考え方が出てきて、それを総合的に市長が判断する。市長の見解のもとに推進していく。こういう時期に来てる。もう待ったなしであろうと思います。

そういった視点から、財政課長、簡単で結構ですから、今のこの前出された10年計画と、それから今後のその後、厳しくなっていく人口減少に特化した形での分析ができるならば、思いを述べていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 総務財政課長。

○総務財政課長（堀内善文君） 前回、全協の場でお示ししました10年推計につきましては、人口が減ることに伴います歳入の減までは盛り込むことができませんでした。ですが、当然人口が減れば税収が減っていく、それはもう当然のことです。またそれに対しまして歳出側の需要額、支出額は減るかという、なかなかそれは人が減ったから費用が減るというのなかなか難しいところがあるだろうと思ひまして、そこら辺は私ども非常に厳しい見方をしてるところでございます。

今後はどうしてもやはり今の推計よりも厳しいほうには向かうということをお心に銘じな

がら、財政の運営をしていかなければならないというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） まさに財政の裏づけでもって行政は動くとするならば、そこが今回までは一定の現状の分析はなされましたが、将来的なものがまだ至っていないと、課長が答弁のとおりです。

恐らく6月議会、新しい議会構成のもとにこの定例議会が行われると思います。それから先、いろんな問題抱えてますけども、やっぱり財政的な動きというものを、私どもは真剣に考えていかなきゃいけない。これが現在課題になっております大型の問題も含めて、私どももさらなる勉強、研究をしながら取り組んでいかなきゃならんだらうと。ぜひぜひ課長以下、職員の、財政課だけではなく、頑張っしてほしいと思っております。

それと総務部長、じゃあ1つの話を特化した形で、この人口問題に対してどう対処していくかというのは、私は3つの視点から考えています。1つは、市長を中心とした市職員を含めてどう施策を講じていくのか。もう1つは、今、議会側も非常に積極的にこの問題に取り組んでいく、そして金曜日からきょうの午前中、そしてまた私の後に一般質問される方々、議員全員がこれから新たな御意見、あるいは提言、その他をまとめていかれるんだらうと。そしてまた3番目に、市民の動き、これがまたきょうも論議されておりましたけども重要であらう、コミュニティに限らず各種組織、この3つが一体となって取り組んでいかなければならない、このように考えています。

総務部長として、この対応の中で、時間的な限界がありますので、1つはどういう組織づくりをしてこの問題に対応していこうとするのか、これは後、一番最後に副市長にもお聞きしたいと思っておりますけども、これが非常に核になるだらうと。

もう1つは財源確保の面で、今増税とか、その他、余り税がふえるという考え方はちょっととることはなかなかできない。ふるさと納税の問題、前回、私、一般質問をいたしました。これに対する市長の考え方もお聞きしました。しかしながら、現実的にこの制度が2015年から住民税の上限が2割、非常に大きな、そしてこの前もお示ししてますように、かなりの金額が個人住民税以上にふるさと納税のほうが多いという市町村も出てまいりまして、いろんな意味で利用されている。だからこれを1つのチャンスと捉えて、私は積極的にやらないと、なかなか税の増収というのは見込めないという現状では取り組んでいくべきではなからうかと思えます。

総務部長は3月で一応、正規職員、退職されるわけですけども、これまでの御努力と考え方があれば引き継がれていくと思います。市長は厳然としておられますし、補佐の副市長もおられますので、また職員の優秀な職員も続々これからそういった立場に立つでしょう。ぜひぜひ思いを述べてほしいと思えます。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 過分な言葉でありがとうございます。組織づくりへの対応と

ということで1つ課題でありましたので、それについて私の考え方や、今の今後のやり方になると思いますが、今の時点の私の考えとご一緒に考えてください。

人口減で組織の中で、例えば職員をふやすことがかなり難しくなります、やはり減ってきます。一方では財源も減ってくるでしょう、それはもうこの中でやっていくしかない。しかし業務はふえていくはずで、いろんな課題がありますのでふえていく、どうやっていくかになります。

今、例えば地元から、あるいは国からいろんな事業なり、かなり来ます。国のほうの事業としては、施策というのはすぐ変わりますし、次から次へ新しいものが入ってきます。どうやるかですが、今までのやり方では一つ一つ受けて対応はできません。ですので、県の幹部の人から、この間の集会のとき、100人ばかりの集会のとき言われたんですけども、国から来た仕事といえども、今、県にとってやるべきなのか、やるべきじゃないのか、それを判断をするような職員が必要だということです。市もそうだと思います。今までは国から来てるものをそのまま素直に受けてやればよいということでしたけども、例えばの例をします、そういう時代じゃないと思います。やはり優先順位を決めて、どれをさきにやっていいかということになると思いますが、先ほど言ってます集中と選択とは、またあれは少し違いますが、そういうことが考えられる組織が大事だと思います。そういうことが選択できる、そういう判断ができるということが必要だと思います。

一方では財源的なものですから、やはり限られた中で、よくコミュニティの中でお話しするんですけども、財源はもうふえません、皆さん方は予算をふやしてください、補助金をふやしてくださいと言いますが、限られた財源の中で今考えられるのはいかに有効に使うか、限られた中でどんなしたら費用対効果出るのか、そこでアイデアを出していただきたい。そのアイデアを出した皆さんたちと一緒にやっていきましょう。いろいろありますけど、大きく考えればこういうことをやっていかないとというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 細かいことはまた時間があれば一通り回りましてお聞きしたいと思いますが、特に人口問題、減少の中で、魅力あるまちづくり、都市づくりをするという大きく2つありまして、それは女性の子供を産むという、子育てをするという、そういったものがその町で、市で保障されてる、これが非常に大きい。もう1つは、若者が生き生きと働くことのできる職場が保障されてる、この2つは大きな柱だと。

それともう1つ加えるならば、登壇しても述べましたように、教育という米百俵の話もありますけども、教育は地域づくりの根源であります、そういったものが加味されて初めてまちづくり、人口減少に対する措置、戦略、あるいは減少社会でどのようなまちづくりをするかというのが出てくるんだろうと、真剣に考えなきゃならん。

保健福祉、特に子ども未来課、あるいは健康課ですか、の方が来て、非常に話をさせていただきました。まず子ども未来課のほうから思いを述べていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（田中一孝君） 議員お尋ねの人口問題に対する考え方なんですけど、この間からいただきました朝倉市人口問題に関する提言書の中にも、このままでは朝倉市の急激な人口の減少は避けられず、将来は朝倉市の衰退はもちろん、行政機能や社会活動の維持が難しくなり、市としての機能しにくくなるとの危機感が募りましたというようなくだりがございますけど、まさに少子化がもたらす影響としてこういった防犯、消防等に関する活動とか、集落という共同体の維持活動状況など、地域の存在基盤にかかわる問題だというふうには思っているところがございます。さらには年金、医療、福祉等の社会保障の分野における現役世代の負担の増といった経済的影響など、社会面や経済面でもさまざまな影響が顕在化しているというふうに思います。

こういった状況に関しまして、具体的な解決策といたしまして、例えば子育て支援だけ充実するとか、そういう私どもが所管しております課1つだけで、そういったどれか1つ政策を打てば大丈夫とかというようなことではなくて、政策、いろんなことを組み合わせていかなければなかなか難しいというふうな認識ではございます。

そういった意味で、うちの課も少子化の関係では子育て支援等についてはやっていく所存ではございますけど、そういう総合的な視点が必要になるのではなかろうかというふうに認識してるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 健康課、お願いします。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 健康課のほうでは健康づくりを中心に事業を行ってるわけなんですけど、今現在、平均寿命と健康寿命の差ということがすごく話題になってます。そういった中で、やはり健康課としては健康寿命を延ばしていただくような市民の方をふやすということが大きな役割かなというふうに考えております。

そういった中で、小さい子供のうちから自分の健康に関心を持っていただいて、健康づくりのためにはこういうことが必要だというような情報発信をしていかないと、大人になってからでは生活習慣というのはその時点で既にでき上がっておりますので、その前からの情報発信、乳幼児健診等で母親とか、そういった保護者の方には説明しておりますが、そういった教育、啓発活動が必要かなというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 保健福祉部長ですかね、金曜日にもありましたけど、婚活事業も含めて、結婚・出産・子育て支援、こういった話がなされています。これから、後からもそういう話がありますんで、健康福祉部長としてこれまで取り組んでこられた、そして今後、特に女性周り、女性だけではなく、男性との関係も非常に子育ては大きい。いろんな意味で施策をしていかなきゃいけない、そういう面でどのようにお考えになってるか、お

聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君） 保健福祉部の中でも子育て関係、健康課におけるいろんな健診関係、また医療費関係、さまざまないわゆる少子化対策に絡んだ政策は行っております。特に子育てに関する、いわゆる子ども未来課に関する部分の事業に関しましてはいろんなニーズがございます。そのいろんなニーズに対応しながらいろんな事業を行っております。健康課の事業にしろ、子ども未来課、また保険年金課もそうですが、いろんな事業をやっていることをいかに職員が情報共有し、それらをいかにうまく住民の方に発信できるか、そういったことも物すごく大事だとは思っております。

いずれにいたしましても、仕事と子育てが両立できるような環境というのは、どうしてもやっぱり事業所の理解、協力は必要だというふうには感じておりますので、その辺も物すごく重要なことじゃないかなというふうには思っております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 各課にずっと聞きたかったんですけど、どうも時間的に無理かなと思ひまして、市民環境部長、統括してお話を、税関係もありますからお願いしたいと思ひますが。

○議長（手嶋源五君） 市民環境部長。

○市民環境部長（江藤敦生君） 人口の変化と税収の関係ということに限って、少し私の意見になるかもしれませんが述べさせていただきたいと思ひますが、人口減少社会におけます税制のあり方、これに対しての方向性をいかにということで自分なりに思っております。1つには、地方税の総額を拡充していく、このためにはやはり国から地方への税源移譲、これはやはり必要不可欠であるというふうには私は思っております。いわゆる地方自治体のいわゆる自主財源としての地方税収というものを強化していくためには、やはり国と地方の税収と歳出、これの不均衡を是正していかなければなりませんので、やはり地方財政改革の中で不可欠なステップではなかろうかというふうに1つ思ひます。

それからもう1つですが、いわゆる各地方公共団体におきます財政需要、それから財政状況の違いを反映した税率の設定といいますか、これをやはり可能にすべきではなかろうかというふうな思ひもしております。全国一律で地方税制度のもとで人口減少という税源の減少に片一方では対応しながら、自主財源の強化を進めるというのはやはり無理があるのではなかろうかと、そういうふうな思ひを日ごろしておるところです。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 市民環境の部の課長もお見えになっておりますけど、時間の関係でさきに全体をやりたいと思ひますんで、この狙いは何かということだけは御理解いただきたい。これは先ほどから申しましたように、市の職員が一人一人が人口問題に関して

施策を持てるような、そういった行政マンであってほしい。きょう午前中にもそういった質問が出ておりましたが、私も全く同感で、これからは自分自身が市長になったようなつもりで政策を論じる、それが取り入れられるかどうかは別です。しかし、私ならこういうものをやりたい、まさに行政に携わってる方はそれが取り上げられていく可能性が非常に大きい。幾ら市民が、議員が言っても、それはあくまでも市の市長含めた行政の皆さん方のお力に頼らざるを得ない。きょうの一般質問の骨子は、ただ単に皆さん方の御意見を聞こうと、ただ単にこの時間を過ごそうと、そういうことではないということだけは、ぜひぜひこの私の一般質問を聞いておる職員の皆さん、ぜひぜひ御自覚をいただきたいと思えます。

じゃあもう1つ、教育の関係で、特に学校教育部門が非常にこの資料にもわかりますように、大体半分以下に25年後には生徒が減ります。もう恐るべき、いつも言います、朝倉東小学校、大福小学校を合わせても180名しかならない。6で割れば1学年30名。蜷城小学校と福田小学校は1学年だけでも10名プラスアルファしかならない。そういった現実が20年後にはやって来る。

学校教育だけではなくて、生涯学習、あるいは文化課も含めて教育委員会として具体的に人口増、あるいは減少措置政策、そういうものが簡単にできるとは思いませんが、魅力ある学校教育を、魅力ある生涯学習を通じた地域コミュニティを含めた取り組み、これは非常に大きなものだと思っています。親も子も孫も、そういったところに定住したい、こういう思いを持つはずです。

そういう面で、学校教育課長から簡単でも結構ですから御意見を。

○議長（手嶋源五君） 教育課長。

○教育課長（秋穂修實君） 今、議員がおっしゃられました推計値、これは確かに切実な現状と将来予測ということで、非常に厳しく受けとめております。

まず教育委員会の教育課としましては、まず今年の4月1日に出しております、この朝倉市市立小中学校の設置及びあり方に関する基本的な考え、この中でも平成30年まで推計値を載せながら、今後どういうふうに対応していくかという中で検討は常々しているところです。

特に小学校におきましては、適正規模というのを朝倉市独自で設置しておりまして、6学級以上、児童数100名以上というのが適正な規模だというふうに捉えております。しかしながら、先ほども推計値で申しましたように、100名以下の小学校がこれからどんどん出てまいります。実際、今の時点でも複式学級が発生してます小学校が1件、それから27年度になりますともう1小学校、今度複式学級になることになりまして、そうなりますと、例えば教頭の配置ができないとか、教職員の配置まで、これは検討、考えなくてはならないことで、何よりも学力の低下というのが懸念されるわけです。ですから魅力ある学校づくりというのを当然していかなくちゃいけませんし、質の高い教育力というのもの

維持していかなくてはならないと思います。

そういった中で、この報告会の提言を読みますと、特色ある何か特化したものをやっただろうかという提案もありますので、そういったものを地域の特色を出しながら今後は考えていかなくちゃならないと思っております。

また、特に今、1つの小中学校が小中一貫校を目指して今検討が進められています。それからもう1つについては、4つの小学校が統廃合し、新しい1つの学校というのが今、建設に向けて協議が進められています。

こういった中で、今後やっぱり学力向上に向けた取り組み、それからその地域の特色ある取り組みというものを十分盛り込みながら、そういう少子化に対応できるような学校づくりをしていかなくてはならないと考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 今までの話、途中ですが、聞く限りにおきましては、現状分析が非常に多い。やはり具体的にこういった形で何かできないのかというのが一番聞きたいわけですけども、それが無理であるということであれば、これからぜひぜひそういった感覚で行っていただきたい。

この資料を皆さん方から全部出していただいたのを見ますと、いつも朝倉と旧杷木、これはそれぞれが独立した自治体だったものが、どういうふうなこの資料で読み取れるか。これは40年、25年後に杷木の人口と現在朝倉人口は、もちろん朝倉のほうが1,000人ぐらい多い。しかし小学校の生徒数は杷木全部と朝倉全部の小学生を合わせた場合に、杷木のほうが多い。これから読み取らなきゃならん。なぜか。朝倉町の現状はどうなっていくのか、これは朝倉だけの話をしてるわけじゃありません、全部、上秋月、秋月、それから嵯城、福田、全部ですけども、じゃあ人口は多いけど小学生が少ないというような状況は、独身者が多いということになります。これは朝倉だけじゃありません、旧甘木市内でもそれぞれです、ただ象徴的に話をしてるだけで。

そうすると朝倉は農業が特に基盤であります。独身者の男性が多い。結婚の数が少ない。当然出産、子供というものが減少してくる。じゃあそれをとめるのは教育委員会なのか、そういうわけではないでしょう。もちろん充実した誇れる学校教育をしていくというのは重要なことですが、それ以前に子供が結婚を通じて出産、子供がふえるような状況をつくり上げていくという施策がなかったら、子供が減るだけではなくて、農業そのものが、担い手が、この資料にもありますように年々減ってきております、もう御承知のとおりです。そういったものを総合的に絡めていかなきゃならん。先ほどの子ども未来課も含め、健康課の話も単独の話に特化されておりますけども、やはり総合的なものをつくり上げていくという形でなければならない。

先ほどから、後からも空き地、空き家の問題が出ると思います。私は古民家等、リフ

ホームするというのは、1つの同じような中身ですけども、古民家構想というのとは、やはりそこに来た人たちがいろいろな職業もあるでしょうし、その町が、その村が、その里づくりというものを含めた形の古民家というふうな意味を持っております。

現状の中で古い、あるいは古くはなくても生活するのに変えたほうが良いというものもあります。非常にクロスしてますから、そこあたりは行政のほうとしても法律、条例に基づいた取り組みということと。

それから古民家構想というものを1つに挙げて私自体は持っておりますけども、こういったものは朝倉市の中に、例えば1つ、秋月にロマンの道というのがあります。あそこも古民家にやって来て、今非常に秋月では外人が来て、非常に人気のある場所になっています。ああいうものが幾つもちこちでできないか。安川にも、秋月にも、上秋月にもそういったものがないのか。そういったものを含めて、先ほどから話をしています子供の減少に対して施策を打っていかなくちゃならないということ、私はみんなで共有しながら考えていこうということで、きょうの一般質問をいたしております。

続きまして、都市計画課のほう、教育委員会のほうはまた後でちょっと振りますので、教育部長、待ってるようなので、後で振ります。

今の問題と、子供の問題と、それから人口も地域差、というものが係っておりますので、そこあたりを農政の課長、何かあれば御答弁をいただきたいと思いますが。失礼、都市計画課長。

○議長（手嶋源五君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 都市を計画するというところで、都市計画課として取り組みを行って来てるわけですが、まず1つには、これまで人口がふえつつあるときには規制という形で都市計画は進んでおりました。その中で今申し上げるのは用途地域の問題。先日からいろいろな機会でご述べておられますが、用途地域については、昭和の時代から現在まで人口が減っていないということをご申し上げてきておられます。これは平成6年の最終用途地域見直し、この時点から現在、今できておりますので、旧甘木の時代からのことです。その後、合併しまして23年に都市計画マスタープランをつくった折に、杷木周辺、それから朝倉周辺に拠点という形で3カ所の拠点を設ける形でマスタープランをつくったものが現在の都市計画マスタープランです。そういった形でそれぞれの拠点を磨いていく事業を今後やっていくということになります。

よろしいですか。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 今、都市計画の今の話、もう少し具体的にやりたいんですけども、観光課も含めて、1つの今度、私自体も将来こうあってほしいなという思いがあるのは、地域の中に古民家構想も含めて、そこが観光地になる。安川には「つげ」という、あるいは固有名詞出して差し支えないと思いますが、檜原のほうですか、「さ乃」さん、そ

れから上秋月のほうには「澗水」ができています、それから秋月のほうにも幾つもあります。もちろん「古処庵」、それから「黒門茶屋」、いろんなものがあります。そういった食事どころも含めて、それから今、ベニシアさんというのが非常にはやってみて、甘木にも来ました。私も非常に彼女のファンで、大原行ったらぜひ行きたいなと思ってるんですが、ああいったものは1つのものですが、やっぱり大原を売り出す、非常に日本全国で大原、あれとはまた別途に、大原のまた別途の意味で非常にまちづくりに貢献している。私は過疎化していきたくらうと、失礼なことですけども思われる地域の中に、そういった宝が、やれば宝があるんじゃないか、それを都市計画、観光というものを絡ませてやることはできないのかというのが私の考えの1つです。

これは地域の方々、後で時間があればコミュニティの話をしますが、そういう人たちとの連携が絶対なんで、しかも今、秋月というところはもう宝なんですよ、ここはね、御承知のとおり。もう1つ、原鶴という、温泉というのね。私はこれは非常に大きな、それ以上にいっぱいたくさんありますが、取り上げて言うならばということです。

それで、そこあたりを、今度322ができますし、あのトンネルも、それからダム、小石原川ダムもできます、新郷土館もできます。私、思いは、そこのちょうどいいところにそういったものをつくっていく。現在あるわけですから、そういったものを含めて何かやっていただいたらいいんじゃないかなという気がいたしております。

全体的に観光、もうずっと前から一般質問でも出ておりますし、インバウンドの話も出ておりましたし、私は思いは、時間もありませんので、ちょっと私の考え方も述べたいと思いますが、東部構想という感覚で思ってるんですが、朝倉と杷木を一体化していく、観光という面です、観光という面では、あるいは農業という面では一体化できるんじゃないか、独立主体は保ちながら。朝倉市としては対外的に売り出す場合には非常に連携している。朝倉と杷木の歴史的なものは、それぞれの特徴を持ちながら、すぐに1つの連携がとれるような状態です。

私も歴史講座とか持ってまして、そちらのほうで連れて行って喜んでいただいております。この前「黒田官兵衛」もずっと杷木、それから三奈木、ずっと回って行きました、蜷城まで行きました。あっちのほう、いろんなところにやり方次第ではあるんで。

特にこれは後で市長にもお聞きしたいんですが、情報センターをやったり必要なんじゃないか。特に米沢に行きますと、上杉神社がありまして、その向こうに博物館がある。それから天草四郎のどこに行きますと、入りますと、全部テレビ、歴史とか、いろんなものを映して、それから資料館みたいなのがつくられています。朝倉市でそれがいいちゅうのはさみしいなと思ってます。

あちこち朝倉市のどこか具体的にないものかと思って、これは探しました。観光課長に無理言って、ちょっとあちこち回ろうと、朝倉から杷木まで。いい場所がありまして、杷木支所の東部が非常に今あいてます。何に使ってるかといったら、投票するときの投票の

場所だということでした。今、杷木の活性化も含めて、あそこに情報センターのものを
つくる。敷地としても、もう建物はあるわけですから、そこをちょっと手を入れるだけで
できるとは思いますけども、原鶴観光からしても、そしてそこに観光の案内というものを、こ
れは青年会議所がもう何十年前につくった朝倉20選やったかな、私も持ってますけど、古
いビデオですけども、ああいったものを再生し直して、そこに行けば歴史、それから観光
地、農業の特産品、いろんなものが一堂に会して見れる、そういう場所が必要なんじゃな
いかなと思います。

今、原鶴の再生は1つの大きな私は課題だろうと思う。福岡県の、もう御存じだと思
いますけども、もう市長、副市長は十分に御存じだと思えますけど、観光協会の委託され
た方があちこち福岡県を回っておられまして、彼も私も会う機会がありました。もったいな
いですねと、こんな温泉というのは幾ら金かけたって簡単にはできるものではありません
から、歴史と伝統を持ったものの中に、ただ、原鶴温泉だけではなくて、その周辺、農業
を一体化した形での取り組みができるんじゃないかな。

これは政策的なものですから、後で市長にはぜひお考えを聞きたい。これは、何かもう
前向きに、私も微力ながら御協力できるものならしていきたいなという考え持ってますの
で、前向きな捉え方をしていただきたいなと思ってます。

観光課長、何か全体的でもいいし、個別的なものでもいいですからお願いします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 今回の人口問題に関するところの提言に基づきまして、
商工観光課としても職員全員集めて、特に人口問題になりますと、観光での交流人口が後
に定住人口につながるというような大きな考え方もございます。じゃあ何からやるのかと
いうことで、既に今やってる部分もございます。そこあたりの部分をまずは情報発信、先
ほど言いますように、観光の拠点の部分も必要でしょう。それからまた別の切り口で、商
工観光のほうは労働のほうも持っております。企業誘致の分も話しております。さらに今
現在、23年から取り組んでおります産業政策マネジャーでの民間適地の掘り起こし等も引
き続きやろうというような感じの中で、この提言に基づいたところの課内のミーティング、
ブラッシュアップを今進めてるところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 広範にわたりますんで、最後、市長との政策的な話をとっておく
ためにも、教育委員会、3人の課長が来ていただいて、部長、教育長もおられるんで、時
間的な配分できませんので、教育長、まず私が述べておるような人口問題、子供が減少し
ていくけども、その中で非常に教育のやり方が難しくなってくるだろう。そういった感覚
の中で、何か教育長としてお考えがあれば、ぜひとも御答弁いただきたいと思えます。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 教育委員会としましては、市長が出してありますマニフェストとか施策方針、こういうのをどのように具体化するかということが、この人口問題にも関係していくというふうに考えております。

今、教育委員会の中でいろいろ話しておりますのは、市長が出してあります親と子と孫と一緒に暮らせる日本一のふるさと朝倉ということで出してありますが、この日本一のふるさとをつくることのできるならば、これは人口の維持ができるんじゃないかなというふうに教育委員会としては考えてます。この日本一のふるさとをつくるということは、現在の市の生活環境、社会環境を変えるとともに、改善するとともに、市民一人一人の価値意識を、見方、考え方、生き方、それを確立することが大事じゃないかなというふうに思っています。

それで、朝倉市教育委員会としましては、ふるさと朝倉の自然や産業、歴史や文化に誇りと愛着を持ち、協力して守り育てて暮らすことができる朝倉市、そういう朝倉市民づくりに教育委員会としては努めたいと考えております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 20分ほどとっておこうと思っておりまして、まだせっかく出席していただいて答弁していただいてない方で、ぜひこれを述べたいという方がおりましたら。そうですか、非常に謙虚な形で、最終的には市長とやれよというようなことでしょうか。

普通、私のスタイルとは全然違うきょうはやり方をいたしております。というのは、何回も言っておりますように、政策論争は市長です、トップ。しかしながら、それを支えていくのが職員である。またそれに対していろんな意見を述べていくのは議会議員の役割であります。こういった立場から、きょうは特に職員の皆さん方に喚起を促す、あるいはまたこれからの行政は自分が担うんだと、こういった意識を持ってほしいということで、恐らく市長も同じ思いを常に抱かれていますのではないかと。俺が先頭に立つけど、君たちもぜひ僕を支え、そして一緒にやっついこうという気持ちでおられるんだらうと私は思っております。

そこで具体的な話に入っていきたいんですが、先ほど述べましたように、まず組織を市長、どういうふうにつくっていくかというのが大事なんだらうと。人口問題だけではなくて、物、人、仕事という、この戦略をつくっていくか、これは100%、同じような課題です。これを早急に、これは国からの交付金の問題もありますので、いい機会なんだらう。私も1つの考え方を持っておるということで示しておりますけども、市長としてはどのように組織づくり、戦略づくりを、この組織という面でまず特化してからお話をいたしたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） いわゆる人口減少問題に対応するために、どういった組織でやっていくつもりかというお話、御質問であります。議会、この質問でもよく出ます、何々課をつくったらどうかとか、何の専門の部署をつくったらどうかとかいう質問を大変いただきます。それぞれに余裕があれば必要な、余裕と言いませんけど、人的なあれがやっぱり必要、とてもいい話ですけども、なかなか限られた人数、むしろ今から職員全体をまだもう少し減らさないかんという状況の中で、新たにそれ専門の課をつくる、なかなか難しい問題ございます。

ですから今回も議案でお願いしておりますように、まず総合政策課というものをつくるという、これはやはりそこで全体的な指令塔みたいな形になって、そこで担当、それぞれの関係する課と調整をして、市としての政策を練り上げてもらうという意味で総合政策課というものを今度設置することになりました。

そういうことをしながら、やはり先ほど言われますように、大事なものは私はもちろんですけども、一番は各課なんですね。やっぱり一番市民に密着、私よりも市民に近いところで仕事をしてます。ですから、今の朝倉市の状況というのは各課が一番理解してると思います。だからそういった面で、いわゆる各課がそれぞれの課の中で、将来の朝倉市の特に人口減少問題ということになれば、それに対してどういう手を打たなきゃならんとか、そういったものをやっぱり敏感に自分たちで考えていただくと。

その1つの、これはことしに限ったことじゃないですけど、もう第3回目になると思いますけれども、職員たちがみずから考えて、いろんな先ほど話がありましたエキスポか、やっています。これにつきましても今回6つの、幾つもまだ来てたんですけども、6つに絞って、政策提案と改善提案というような形で3つずつ提言をしてもらいました。なかなかどれもすばらしい提案です。また、やろうと思えば、実際政策としてできるような話。

例えば消防防災課が、消防団というのは、団員というのは、この地域に生活してる連中です、この地域におる、それに独身が多いと、結婚してない未婚者が多いと、だから消防団独自で婚活事業をやったらどうかとか。これなんかは朝倉市が今単独で婚活の予算をしています。それに企画して申し込めばできんことはない事業なんです。そういったこと、もろもろそれぞれの課が考えていただいていますので、それを総合政策課というところで調整をしながらやっていくというのを今の現在では、まだこれは組織というのは、そのときそのときで、やっぱりそのときに合うように変えていかなきゃならんというのが私の考え方ですので、現在のところはそういう形でやらせていただきたいというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 内部の組織というものを、今、市長が答弁されたとおりで思うんです。ただ、人口問題というものは、10年、20年、25年だけではなくて、30年、40年、ずっと続いていきます。25年のあれはこの時点ではこうなりますよという話で、それから好転するという話ではないんですね、あれは。まだどんどん減っていきます、もう物理的

に減っていきます、減少していきます。1兆円の金をかけても、それは人口をふやすというのは不可能です。いろいろな医学的なものも今、捉えられてるとは思いますが、この対策の組織づくり、これはもう待ったなしであると。そして今すぐにこれが効果とか出るとか何とかではなくて、そういう体制をつくって、1カ月に1度でも話し合う、その基礎づくりを各部に任せる、各課に任せる、係に任せる、そしてそれをまたボトムアップをしてくる、こういうやり方を常時やっていくということが必要なんではないか。

それで、これは先ほどから出ておりますように統括する総合政策課。そこが部長を含めて副市長、これが全体的に統括をしていくという姿が出てこなきゃならんと。私は対策何とかというふうな形を思っておりますけども、これは具体的に市長のほうで、市長部局でやることだろうと思います。これはぜひ、物、人、仕事の戦略を策定しなきゃならんわけですから、これは早急にそういったものとの絡みをつくっていただきたい。ややもすると交付金をもらうための施策になっちゃいかんわけですね。それで先ほど総務課長が話しておりました競争がどうの、そんなものはどうでもいいんですよ、朝倉市が独自に朝倉市の現状を踏まえ、夢を描き、将来の展望を開くための戦略、これはよその市がどうであろうとこうであろうと、朝倉市独自であってほしい、このように思っております。

もう1つ、この人口問題にかかわっていく上では、コミュニティの力、存在というのは絶対です。今、17のコミュニティで人口問題を懸念してないコミュニティはないと思います。いろんなところでコミュニティ独自で考え方が、あるいは検討がなされているところもあると思います。しかしやっぱり自分たちだけが集まってやる話ですので、コミュニティ協議会を中心としてこれを取り組んでいく、そういった個別的な組織、もちろんコミュニティ協議会はまだ現実にあるわけですが、それと同時に人口問題に特化した形の横断的組織をつくることはできないのか。それと行政とが絡む、こういうのが必要ではないか。

もう1つは、やはりこの種の問題も専門的な話が出てまいります。現場でいろんなことやってる人たちの話も必要です。ちょっと少し次元が違う捉え方が出てまいります。そういった専門的な人たちの部会といいますか、集まりといいますか、そういうものもやっぱりつくっていくべきではないのか。

それをやっぱり統括するのはやっぱり市の行政です。あなたたち、一生懸命やれと言ったって、なかなか集まったり、そこをリードしていくことはなかなかその組織だけではできないでしょう、そういったものを市長が狙っておられます親と子と孫が住むというのは一体だということに思っておりますので、そこあたり、コミュニティの横断的な人口問題対策の、言葉は仮称であれですけども、何でもいいですけども、市長どうですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） さっき言われますように、この人口減少問題に取り組む上で、コミュニティの持つ意味というのは非常に大きなものがあると私も考えてます。横断的組織ということがどうかということですけども、この朝倉市の中でもコミュニティによっ

ていろんな状況が違います。それを一括して横断的にするのが果たしていいかどうかというのは別ですけども、各コミュニティにそれなりに問題意識を、もちろん持ってあると思いますけども、余計醸成するためにも、やっぱりふるさと課が中心になって各コミュニティと話さないかん。

特に私、最近ある本を読みましたところ、田舎に移住した方がまた戻られると。これの一番大きな要因の1つが、いわゆる田舎のほうの、例えばいろんな、これが田舎のよさでもあるんですけど、伝統的な行事ですとか、そういったものが、いろんなしがらみあります。それになかなかついていけん。ちゅうことは周り、いわゆるコミュニティ、周りの人たちの新しく来た人に対する理解とか、そういったものも逆に市のほうから各コミュニティに教えてやるというか、話し合いをしていかなきゃならん。

そういったことも含めて、コミュニティがこの問題を積極的に捉えていくために、市としてもやっぱり横断的な組織というのはちょっと置いて、やっぱりやっていかなきゃならんというのは同感であります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） まさに今、旧甘木市も合併都市でありますし、朝倉市も合併都市で、それを構成しております地区のコミュニティは本当にそれぞれの歴史と伝統を持ち、さまざまです。しかし、それだけの組織の中で解決できる問題ではないという意味で、私はみんなが集まって、いろんな情報を共有し、お互いの悩みを打ち明け、そして協働できるものがそこから見えてくるならば、ああ、あなたのところはそういうことも考えてやってるのかと、じゃあ私のところもやりましょう、そしたら市のほうとしてどう協力ができるのか、コミュニティもどうやって一緒にやってやれるのか、そういった話が出てくるだろう。今はふるさと課がやってるのは、やっぱりどうしても定例的な、それこそ日常業務的なお互いの定例会というのが中心ではないかなという気がします。それはいろんなことやってると思いますが、人口問題をいろんな面でやっていく。

私も今度どうなるかわかりませんが、次回の議会に出てこれなかった場合には、市長に頼んででも囑託でも人口問題の仕事をしたい、これくらいの気持ちがあります。やっぱり誰かが中心になってやらないかん、それは市長です。しかし職員も手が回らん。そしたら囑託でもいいし、いろんな経験がある人を、ちょうど今、観光課に置いております何やったかな、産業マネジャーのようなの必要ですね。だから人口問題を中心的にやる人材というものを抱えていくのも必要なんじゃないかというふうに思っています。

選挙に出る以上は、私は議員として通していただきたいとは思っておりますけども、私は今言ったように朝倉市のことを考えると、やっぱり我が娘たち、私は甘木で生まれ、甘木で育って、今、今日おるわけですが、もしもきょう子供が生まれてくるならば、その子たちが20年後に朝倉市にいてくれるのかな、そういったことを懸念してなりません。私もちょうど孫ができる年齢になりましたし、その子供たちがどこで生活していくかというの

は非常に関心がありまして、できれば朝倉市に戻ってきて、生活をして、それこそ親と子と孫が生活できるようなものが一番私も願う年齢になってまいりました。

コミュニティだけではない、いろんなものがあるんですが、先ほどからふるさと納税も含めて、これはちょっと今回の施政方針にも出ております。しかし、まだまだ私は力を入れてやるべき課題ではないか。趣旨、目的は一応わかります。しかし、この絶好のチャンスを生かすべきだと。市挙げて、地域、農業を含め、特産品を産出してる方々とも含めて、きょうもブランド化の話も出ましたが、こういったものをつくるきっかけになるんじゃないかと思っておりますが、市長いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） ふるさと納税につきましては、前回議員が質問されたときに申し上げました。基本的な考え方として申し上げたとおりでありますけれども、今回出てきておりますように、朝倉市としてお礼というような形の中で地元の特産品を送らせていただくということで、今その作業を、どういう形ちゅうか、どういうものを送付するのかということで、今その作業をしている途中であります。

実はもう既に、例えば関西朝倉会ですとか、関東朝倉会の方には、こうしてつくりますんで、できたらまたパンフレットを送りますからよろしくお願ひしますというようなことで、まずできたらという前提ですけども、そういう形でもやっていますし、大いに今後、このことについては取り組みをしていかなきゃならんというふうに思っています。

ただ、この前、上京したときに、総務省のほうから過度にならんごととしてくださいとくぎを刺されております。平戸市が頭を抱えておりました。そのことだけは申し上げておきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） ふるさと納税に関しては非常におくれてるという言い方はおかしいですけど、取り組みがまだ具体的になされてないんで、過度になるような状況はまだないんだと朝倉市は思います。1年、2年たって、これ5年ぐらい、もうなるんですが、いろいろないい面、悪い面も出てますから、しかし、これはもうぜひやるべき課題、何も損することはないんですから、ぜひぜひやっていただきたいと思います。

時間の関係で、いろいろ教育委員会も来ていただいています。それぞれ、あるいはまだまだ皆さん方に御意見、あるいは答弁もいただきたいんですけども。

最後に市長、私も孫を持つような年齢にもなってまいりました。非常に甘木、朝倉含めて、杷木も含めて、この郷土が少しでも魅力のある町になってくれたらいいなど。これは議員という立場からすると、行政施策に対しては厳しい審査というものも必要です。これは本来議会がなさなきゃならない第1課題です。しかし、市長を中心として、これはぜひやりたいという、そしてその思いが伝わってくるならば、また共有できるものならば、一体となって市長を中心としてやっていかないかん。何はともあれ、市長のリーダーシッ

プというものが一番大きい。それを支えるのが職員、そして、またそれを一緒にやっ
ていこうとする立場に立つのもまた議会議員のものでもあるだろうと。またそれを大きく支
えてくれるのが住民である。1つの課題が将来の朝倉市のためになるとみんなが思えば、こ
れに反対する者はいないんだらうと、そういうふうに思います。ぜひぜひ市長中心として、
この人口問題、将来的に何らかの形をとれるように心からお願いしたい。

最後の市長の簡単で結構ですけど、決意をお願いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 人口減少問題につきましては、今までも歴代の市長さん、取り組
んでこられたんだらうと思います。しかし、現在それが非常に切実な状況となってきてお
ります。ですから、この問題については市長及び職員のみならず、議会の皆さん方、それ
から市民の皆さん方と一緒にになって真剣に取り組んでいかなきゃならんと。そうしないと
将来の朝倉市は非常に危ぶまれるという状況でありますので、ぜひそういう形で組み
みをさせていただきたいし、また皆さん方の御協力もぜひお願いを申し上げたいというふう
に思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 市行政、議会、住民の三者一体となった人口問題の取り組み、こ
れを今後の課題として願いながら、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうご
ざいました。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後2時8分休憩